

OperationHelper AdminExtension ユーザーズガイド

OperationHelper™ for Microsoft® Cluster Service R2.0 AdminExtension

はじめに

『OperationHelper AdminExtension ユーザーズガイド』は、これから OperationHelper™ for Microsoft® Cluster Service R2.0 AdminExtension (以下 OperationHelper AE と省略します) を導入しようとしているシステムエンジニアや、すでに導入されている OperationHelper AE の保守・運用管理を行う管理者や保守員の方を対象にしています。

Microsoft®および Windows®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Windows®の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。

OperationHelper™は、日本電気株式会社の商標です。

その他のシステム名、社名、製品名はそれぞれの会社の商標及び登録商標です。

目次

1. 概要	5
1.1. はじめに	5
1.2. 動作環境	5
1.2.1. ハードウェア	5
1.2.2. ソフトウェア	5
1.3. 本書について	6
2. リソース依存関係ビューア	7
2.1. 起動	7
2.2. リソース依存関係ビューア	8
2.2.1. リソースアイコン	8
2.2.2. リソース依存関係ライン	9
2.3. リソースのオンラインとオフライン	9
2.4. 依存関係の設定と削除	10
2.4.1. 依存関係の設定	10
2.4.2. 依存関係の削除	11
3. アラートビューア	13
3.1. クラスタ監視サービス	13
3.2. 起動	13
3.3. クラスタ監視サービスへの接続	14
3.4. 監視対象クラスタの追加と削除	16
3.4.1. 監視対象クラスタの登録	17
3.4.2. 監視対象クラスタの削除	17
3.5. アラートビューア メイン画面	18

3.5.1. 最新の情報に更新	18
3.5.2. アラートの詳細表示	19
3.6. 表示列の変更	20
3.6.1. 表示項目の追加と削除	20
3.6.2. 列の表示順	21
3.7. 表示項目のフィルタ機能.....	22
3.7.1. フィルタの設定	22
3.8. アラートログファイルの表示	25
4. ログ収集ツール	26
4.1. 起動	26
4.2. 収集先への接続	27
4.3. ログ収集ツール メイン画面	28
4.3.1. ノード情報表示.....	28
4.4. ログの収集.....	29

1. 概要

この章では、OperationHelper AE の概要について説明します。

1.1. はじめに

OperationHelper AE は、Microsoft Cluster Service(以下 MSCS と省略します)のシステム構築・保守・障害解析を容易にし、さらなる高可用性・運用性を実現するミドルウェアです。

1.2. 動作環境

OperationHelper AE は以下の環境で動作します。また、サーバ上では MSCS が稼働している必要があります。

1.2.1. ハードウェア

- ハードウェア条件 : IA サーバ(1)
- 必要メモリ : 最低 64MB
- 必要ディスク容量 : 2MB 以上の空き容量(2)

1.2.2. ソフトウェア

- サーバ OS : Windows 2000 Advanced Server
Windows 2000 Datacenter Server
Windows Server 2003,Enterprise Edition
Windows Server 2003,Datacenter Edition
- クライアント OS : Windows 2000 ファミリ
Windows Server 2003 ファミリ
Windows XP Professional(3)
- .NET Framework : Microsoft .NET Framework 1.0
Microsoft .NET Framework 1.1(4)



動作環境の詳細につきましては、製品付属のセットアップカードをご覧ください。

- 1 IA64 サーバでは、Microsoft .NET Framework が動作しないため、OperationHelper AE は動きません。
- 2 Microsoft .NET Framework がインストールされていない場合は、別途 100MB 必要です。
- 3 クラスアドミニストレータが動作できる環境を整えた後、本製品をインストールしてください。
- 4 .NET Framework は、サーバとクライアントで同じバージョンである必要があります。

1.3. 本書について

本書では、以下のコンポーネントについて解説します。

- **リソース依存関係ビューア**

リソース依存関係ビューアは、依存関係のビジュアル化を行い、依存関係の設定や状態確認を容易にするツールです。

2章では、リソース依存関係ビューアの使用方法和各種設定方法を解説します。

- **アラートビューア**

アラートビューアは、最新のログ情報を表示させることで、過去の障害・警告情報を見ながらクラスタの管理ができるツールです。

3章では、アラートビューアの使用方法和各種設定方法を解説します。

- **ログ収集ツール**

ログ収集ツールは、障害調査に必要なログファイルを一括して収集することができるツールです。

4章では、ログ収集ツールの使用方法を解説します。

2. リソース依存関係ビューア

リソース依存関係ビューアを使用すると、クラスタアドミニストレータのリソースプロパティダイアログで設定していた複雑な操作が簡易化されます。また依存関係のビジュアル化により、現在の依存関係の状態確認が容易になります。

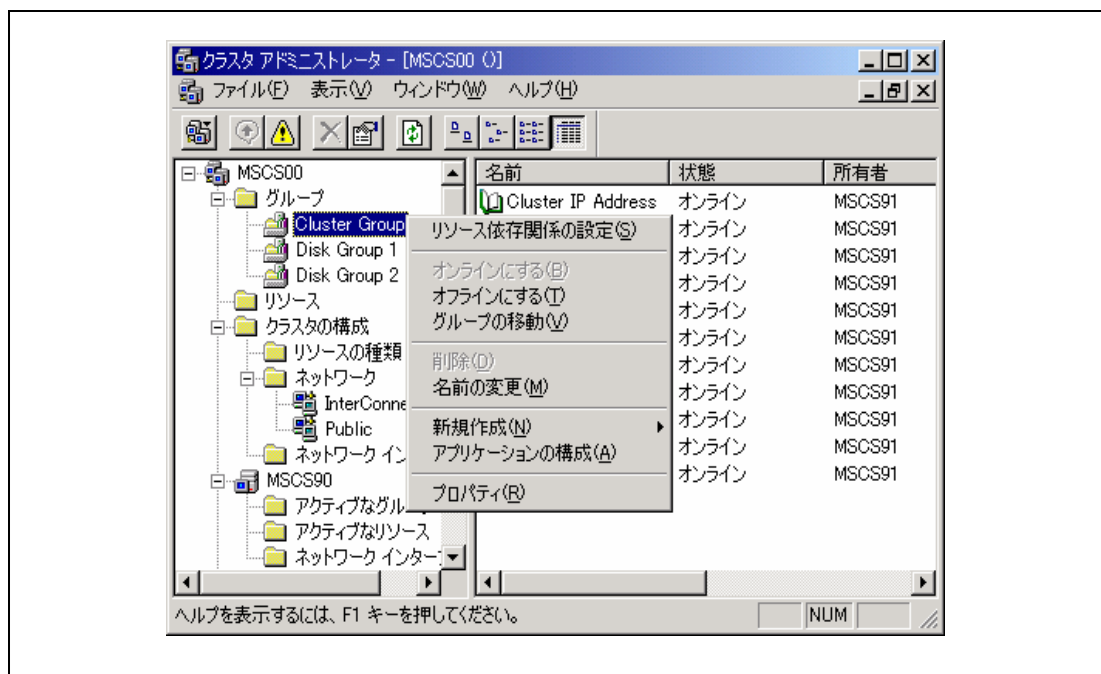
この章では、リソース依存関係ビューアの使用方法和各種設定方法について説明します。

2.1. 起動

リソース依存関係ビューアの起動は、クラスタアドミニストレータから行います。

[起動手順]

1. クラスタアドミニストレータを起動して、依存関係を表示したいグループ名を右クリック(1)



2. [リソース依存関係の設定(S)]を選択

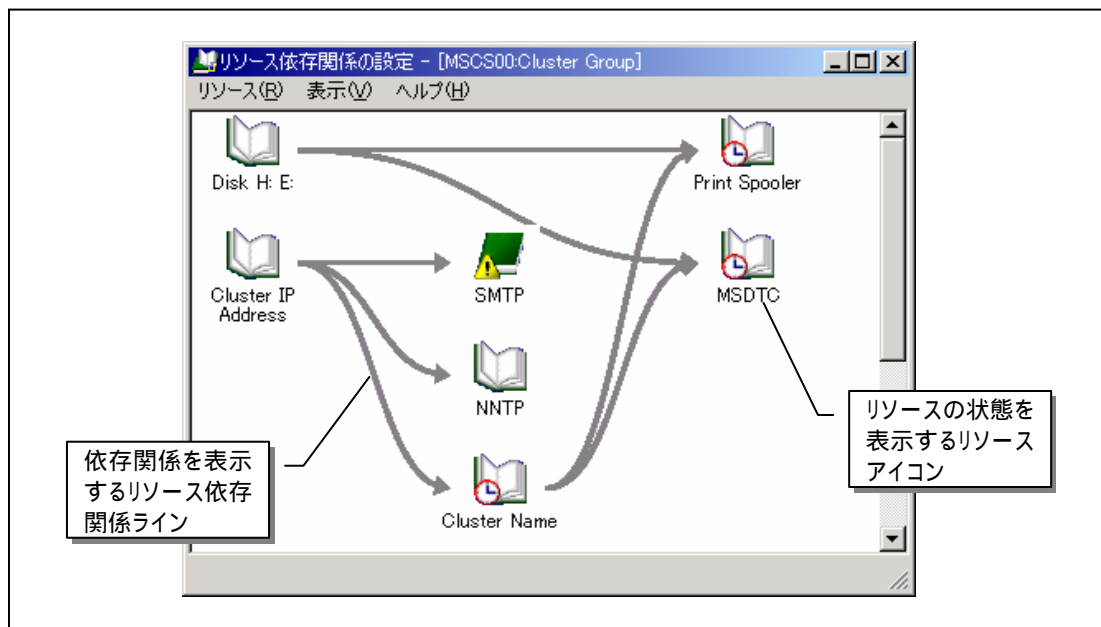
以上で、リソース依存関係ビューアが起動します。

- 1 複数のコンピュータからリソース依存関係ビューアで1つのクラスタを管理している場合、1つのコンピュータから本製品をアンインストールすると他のコンピュータからリソース依存関係ビューアを起動できなくなります。リソース依存関係設定ビューアを使用し続ける場合は以下のコマンドをコマンドプロンプトから実行してください。

```
C:\> cluster <クラスタ名> /REGEXT:<インストールディレクトリ%\CSOPCNEX.dll>
```

2.2. リソース依存関係ビューア

起動すると、選択したグループ内にあるリソースの依存関係が表示されます。



2.2.1. リソースアイコン


リソースアイコンは、リソースの状態によって以下の5種類が表示されます。



各リソースの状態が変わると、リソースアイコンが状態に応じたものへ変更されます。変更されない場合は、メインメニューから

[表示(V)] **[最新の情報に更新(R)]**

を選択してください。

 リソースアイコンの下に、リソース名が表示されます。長すぎるリソース名が付けられている場合は、リソース名の一部が表示されない場合があります。

2.2.2. リソース依存関係ライン

リソース間に依存関係がある場合は、リソースアイコンを結ぶリソース依存関係ラインが表示されます。



ラインの始点は「依存される」リソースを意味します。また、ラインの終点は「依存する」リソースを意味します。上図では、「リソース B(ラインの終点)は、リソース A(ラインの始点)に依存する」という状態を表します。

2.3. リソースのオンラインとオフライン

リソース依存関係ビューアからリソースをオンラインまたはオフラインにすることができます。

- **オンライン**

リソースアイコンをクリックして選択状態にし、メインメニューから[リソース(R)] [オンラインにする(B)]を選択します。

- **オフライン**

リソースアイコンをクリックして選択状態にし、メインメニューから[リソース(R)] [オフラインにする(I)]を選択します。

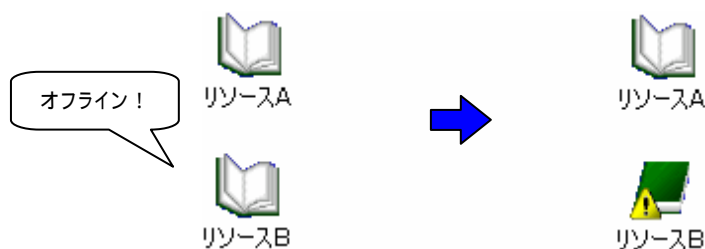
リソースアイコンを右クリックしたときに表示されるショートカットメニューからも、オンラインまたはオフラインにすることができます。

2.4. 依存関係の設定と削除

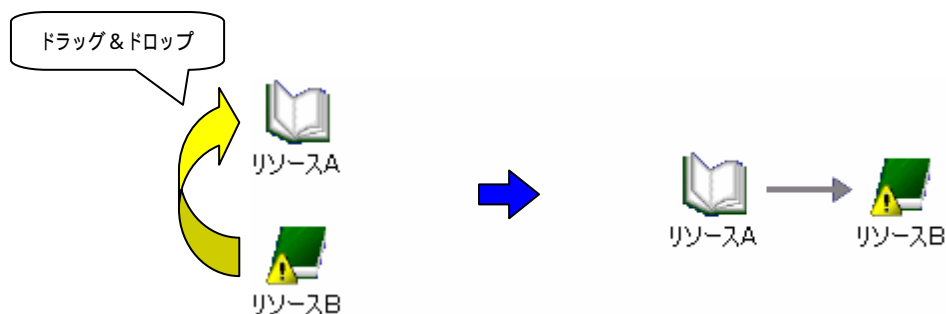
2.4.1. 依存関係の設定


[設定手順]

1. リソース B をオフラインにする



2. リソース B のアイコンをリソース A のアイコン上にドラッグ&ドロップ



 リソース B が以下のいずれかのアイコン(オフラインまたは障害)のときに、依存関係が設定できます。



リソース B がオンラインのままリソース A のアイコンにドラッグ&ドロップを行うと、リソース B をオフラインにするかどうかの確認メッセージが出ます。「OK」をクリックしてから 10 秒以内にオフラインにできたときのみ依存関係を設定できます。


3. リソース B をオンラインにする



以上の操作により、リソースの依存関係を設定することができます。

2.4.2. 依存関係の削除

依存関係の削除には、依存関係を1つだけ削除する方法と、あるリソースが持つ依存関係を一括して削除する方法があります。

 各リソースが以下のいずれかのアイコン(オンライン、オフライン、障害)のときに、依存関係が削除できます。



オンライン



オフライン

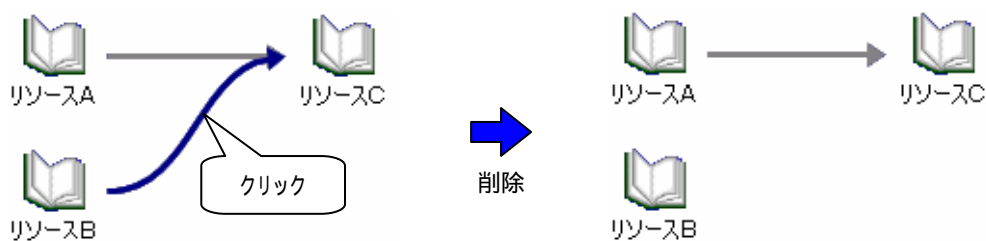


障害

- 依存関係を1つだけ削除する

[削除手順]

1. 削除するリソース依存関係ラインをクリック
リソース依存関係ラインを選択状態にします。
2. メインメニューから、[リソース(R)] [依存関係を削除(D)]を選択
選択状態になっている依存関係ラインが削除されて、依存関係がなくなります。

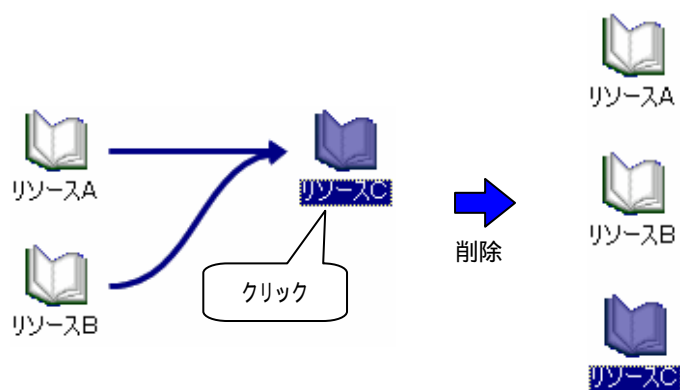


以上の操作により、依存関係を1つだけ削除することができます。


- 依存関係を一括して削除する

【削除手順】

1. リソース C のアイコンをクリック
リソースのアイコンを選択状態にします。
2. メインメニューから、**【リソース(R)】** **【依存関係を削除(D)】**を選択
選択状態になっているリソースの依存関係がなくなります。



以上の操作により、リソース C が依存しているすべての関係が削除されます。

 依存関係の設定または解除ができなかった場合は、メインメニューから **【表示(V)】** **【最新の情報に更新(R)】** を選択してください。

3. アラートビューア

アラートビューアは、監視対象として登録しているクラスタで発生したアラート情報を自動表示することができます。また、ローカルディスクに保存されたアラート情報の表示や、各種設定によりアラートビューアで表示する項目の選択などが行えます。

この章では、アラートビューアの使用方法と各種設定方法について説明します。

3.1. クラスタ監視サービス

クラスタ監視サービスは、監視対象として登録されているクラスタのアラート発生を監視し、アラートが発生するとアラートビューアに自動でアラート発生通知を行います。また、クラスタ監視サービスは、発生したアラート情報をアラートログファイルに記録します。このアラートログファイルを使用し、後で解析作業を行うこともできます。アラートログファイルの表示方法については、「3.8 アラートログファイルの表示」(25 ページ)を参照してください。

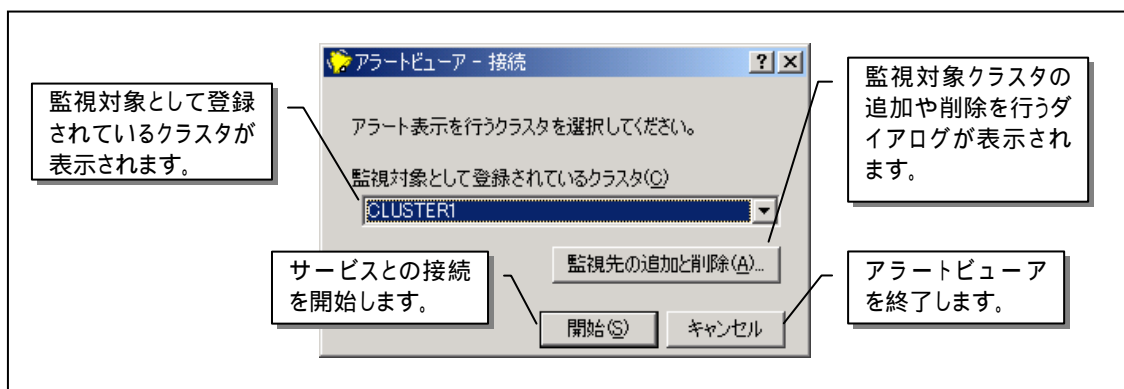
監視対象クラスタの追加と削除については、「3.4 監視対象クラスタの追加と削除」(16 ページ)を参照してください。

3.2. 起動

インストール後にデスクトップに作成されるショートカットアイコン、または[スタート]メニューの[プログラム]から起動してください。

3.3. クラスタ監視サービスへの接続


アラートビューアを起動すると、以下の画面が表示されます。



アラートビューアを使用するには、アラート発生を監視するクラスタ監視サービスと接続する必要があります。


[接続手順]

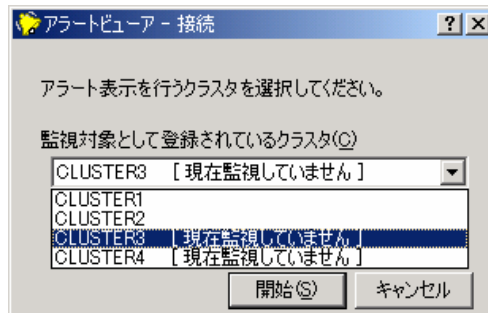
1. コンボボックスにあるクラスタの一覧から、アラート表示を行うクラスタを選択

 インストール直後は、監視対象として登録されているクラスタはありません。監視対象となるクラスタを登録してください。登録方法については、「3.4 監視対象クラスタの追加と削除」(16 ページ)を参照してください。

2. [開始(S)]ボタンをクリック

以上の操作により、サービスとの接続が開始されます。接続が完了すると、メイン画面が表示されます。

 クラスタ名の後に、[現在監視していません]という文字列が表示される場合があります。



[現在監視していません]という文字列は、以下の場合に表示されます。

アラートログファイルを開くために仮登録した場合

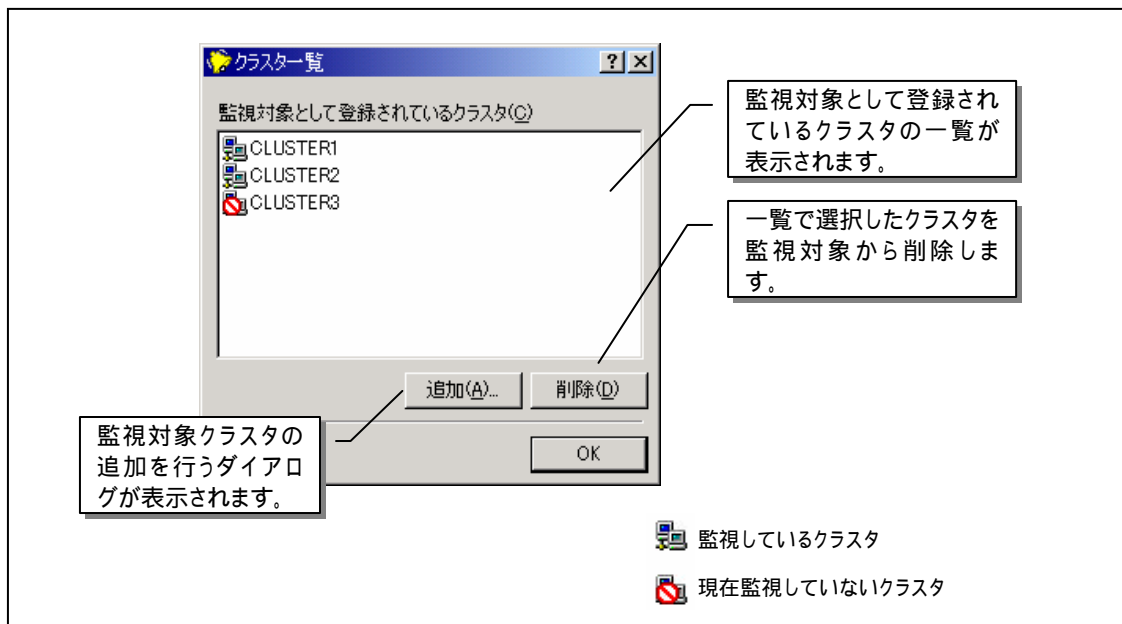
登録時にクラスタが見付からない場合

登録したクラスタを構成するすべてのノードで、MSCS をアンインストールした場合

このクラスタを選択すると、アラートログファイルに記録されたアラート情報がアラートビューアで表示されます。アラートログファイルの表示方法については、「3.8 アラートログファイルの表示」(25 ページ)を参照してください。

3.4. 監視対象クラスタの追加と削除

監視対象クラスタの追加や削除を行う場合は、接続画面の[監視先の追加と削除(A)]ボタンをクリックしてください。クリックすると、以下の画面が表示されます。



監視対象クラスタについては、「3.1 クラスタ監視サービス」(13 ページ)を参照してください。

ログ収集ツールを使用する場合も、ここでクラスタを登録する必要があります。ログ収集ツールについては、「4 ログ収集ツール」(26 ページ)を参照してください。


3.4.1. 監視対象クラスタの登録

監視対象クラスタの登録は、以下の手順で行います。

[登録手順]

1. 監視対象として登録されているクラスタの一覧画面で、[追加(A)]ボタンをクリック
クリックすると、クラスタ名を入力するダイアログが表示されます。
2. クラスタ名を入力
監視対象として登録するクラスタ名を入力します。入力できる最大文字数は 63 文字です。
3. [OK]ボタンをクリック
入力されたクラスタが見付かると、クラスタ監視サービスは自動的に監視を開始します。

以上の操作により、監視対象とするクラスタを登録することができます。

 クラスタ監視サービスは、登録時にクラスタが見付かった場合のみクラスタの監視を行います。見付からなかった場合は、アラートログファイル表示用のクラスタとして登録されます。アラートログファイルの表示方法については、「3.8 アラートログファイルの表示」(25 ページ)を参照してください。

3.4.2. 監視対象クラスタの削除

[削除手順]

1. 監視対象として登録されているクラスタの一覧から、削除するクラスタを選択します。
2. [削除(D)]ボタンをクリックします。

以上の操作により、選択したクラスタは一覧から削除されます。また、クラスタ監視サービスは削除されたクラスタの監視を終了します。

3.5. アラートビューア メイン画面

接続が完了すると、以下の画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Alert Viewer - [CLUSTER1]' window. The table contains the following data:

日時	コンピュータ	ソース	種類	説明
2003/02/25 00:00:24	SERVER2	DhcpServer	情報	DHCP サービスはデータベースの整理を...
2003/02/25 00:00:24	SERVER2	DhcpServer	情報	DHCP サービスはユニキャスト IP アドレ...
2003/02/25 00:00:24	SERVER2	DhcpServer	情報	DHCP サービスはマルチキャスト IP アドレ...
2003/02/25 00:01:51	SERVER1	DhcpServer	情報	DHCP サービスはデータベースの整理を...
2003/02/25 00:01:51	SERVER1	DhcpServer	情報	DHCP サービスはユニキャスト IP アドレ...
2003/02/25 00:01:51	SERVER1	DhcpServer	情報	DHCP サービスはマルチキャスト IP アドレ...
2003/02/25 00:04:35	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 00:08:07	SERVER1	DhcpServer	エラー	DHCP/BINL サービスは、この Window...
2003/02/25 00:09:42	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 00:15:07	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 00:20:13	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 00:25:38	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 00:30:44	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 00:36:09	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 00:41:15	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 00:46:40	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 00:48:54	SERVER2	DhcpServer	エラー	DHCP/BINL サービスは、この Window...
2003/02/25 00:51:46	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 00:57:11	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003/02/25 01:02:19	SERVER2	NNTPSVC	情報	Microsoft NNTP Service 5.00.0984 ...
2003年3月3日 13:20:05	SERVER1を監視しています。			
2003年3月3日 13:20:05	SERVER2を監視しています。			

Callouts in the image:

- Clicking on a column header sorts the list.
- The cluster being monitored displays alerts; a maximum of 999 alerts can be displayed.
- The cluster monitoring service and communication status between nodes are displayed.

3.5.1. 最新の情報に更新

通常アラートビューアは、各ノードからアラートが発生した時点で自動的にその情報を表示します。しかし、クラスタ監視サービスが停止していた場合(電源 OFF など)や通信回線に障害が発生した場合、その間に発生したアラートを取得することができません。このような状況から復帰した場合は、メインメニューから

[表示(V)] **[最新の情報に更新(F)]**

を選択してください。これにより、各ノードからアラート情報がすべて再取得されます。

アラート表示ウィンドウを右クリックしたときに表示されるショートカットメニューからも、最新の情報に更新することができます。

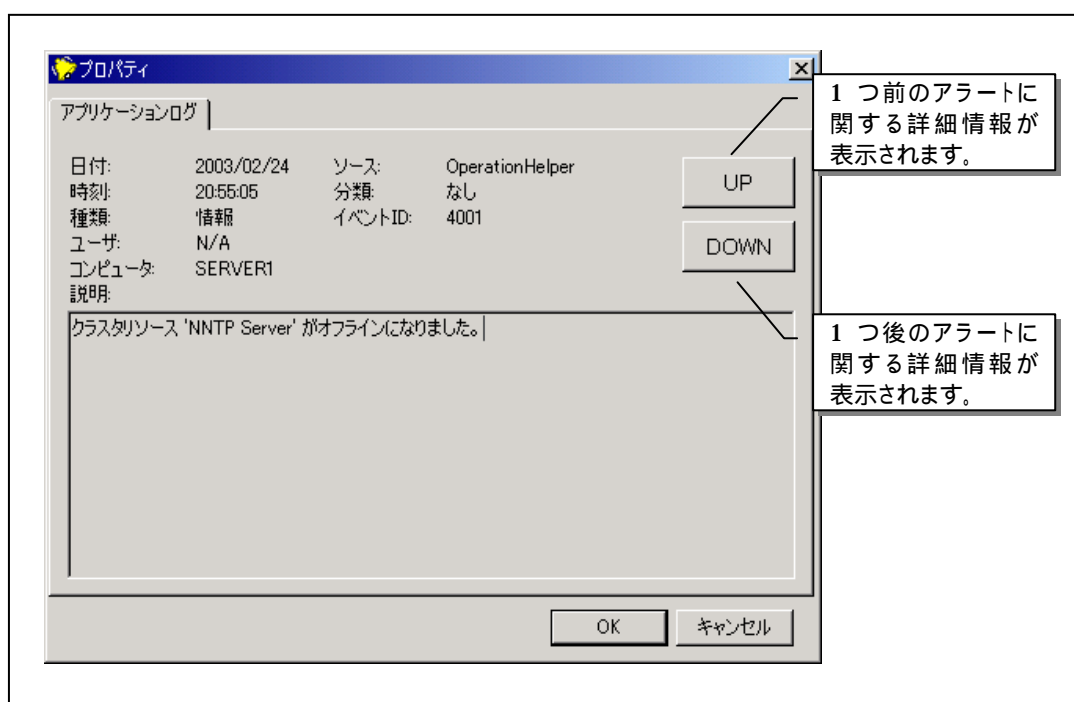
3.5.2. アラートの詳細表示

アラートビューアでは、各アラートの詳細情報を表示することができます。

[表示手順]

1. アラートビューアから、詳細表示を行うアラートを一つ選択
2. メインメニューから、[表示(V)] [プロパティ(R)]を選択

以上の操作により、選択したアラートの詳細情報が表示されます。



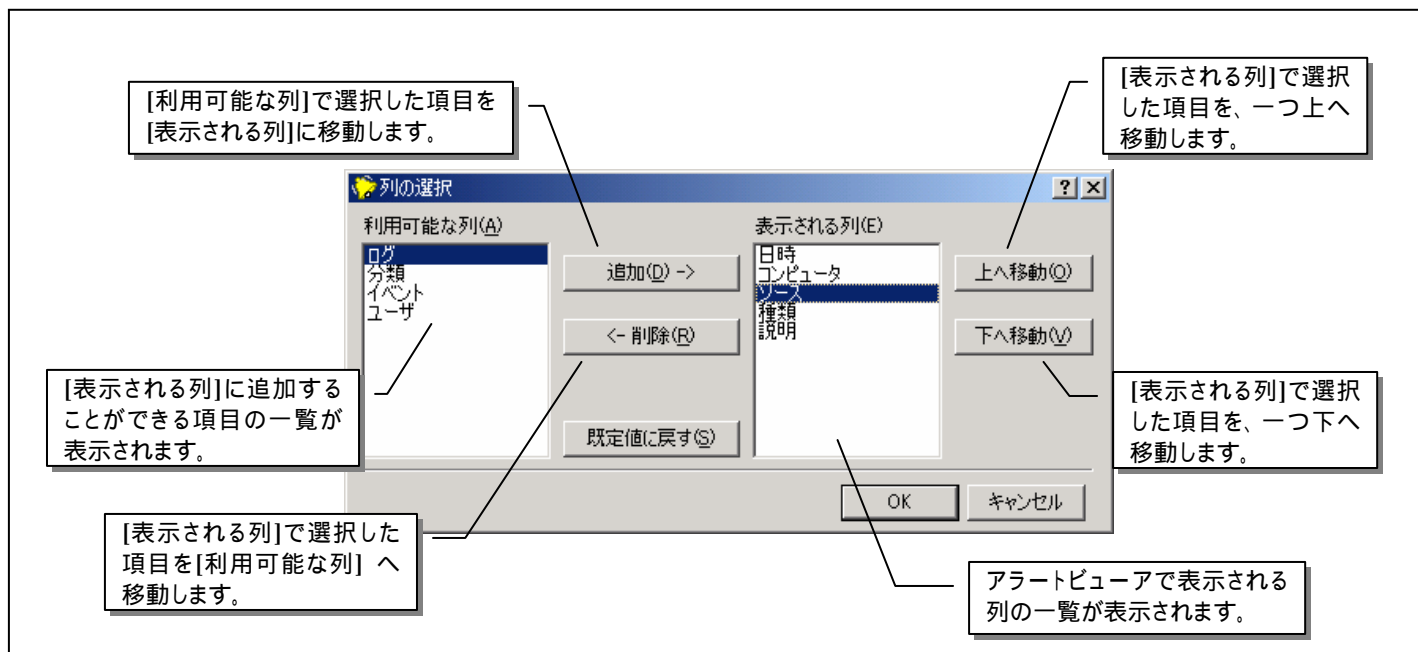
アラートを右クリックしたときに表示されるショートカットメニューからも、アラートの詳細情報を表示することができます

3.6. 表示列の変更

アラートビューアでは、表示する列を変更することができます。表示する列を変更する場合は、メニューから

[表示(V)] [列の選択(S)]

を選択してください。



3.6.1. 表示項目の追加と削除

● 項目の追加

[追加手順]

1. [利用可能な列(A)]の一覧から、追加する項目を選択
2. [追加(D)]ボタンをクリック

以上の操作により、[表示される列(E)]の一覧に新しい項目が追加されます。

● 項目の削除

[削除手順]

1. [表示される列(E)]の一覧から、削除する項目を選択
2. [削除(R)]ボタンをクリック

以上の操作により、[表示される列(E)]の一覧から既存の項目が削除されます。

3.6.2. 列の表示順

アラートビューアで表示する列の順番は、[表示される列(E)]の上から下への順番に従って、アラートビューアの左から右に表示されます。

[変更手順]

1. [表示される列(E)]の一覧から、順番を変更する項目を選択
2. [上へ移動(O)]ボタンまたは[下へ移動(V)]ボタンをクリックし、目的の位置へ移動

以上の操作により、列の表示順を変更することができます。

3.7. 表示項目のフィルタ機能

アラートビューアでは、必要に応じて、すべてのアラートを表示することや希望するアラートのみを表示することができます。すべてのアラートを表示する場合は、メインメニューから、

[表示(V)] [すべて表示(A)]

を選択してください。また、フィルタ機能を利用して希望するイベントのみを表示する場合は、メインメニューから、

[表示(V)] [フィルタ(F)]

を選択してください。

3.7.1. フィルタの設定

設定可能なフィルタは、[範囲] [ログ] [種類] [ソース] [分類] [イベント] [ユーザ] [コンピュータ]があります。各フィルタで設定された内容とすべて一致するイベントが、アラートビューアで表示されます。

- [範囲]フィルタ

[範囲]フィルタ設定画面では、アラートビューアで表示する最大の表示件数を設定することができます。また、アラートが発生した日時をフィルタとして設定することもできます。

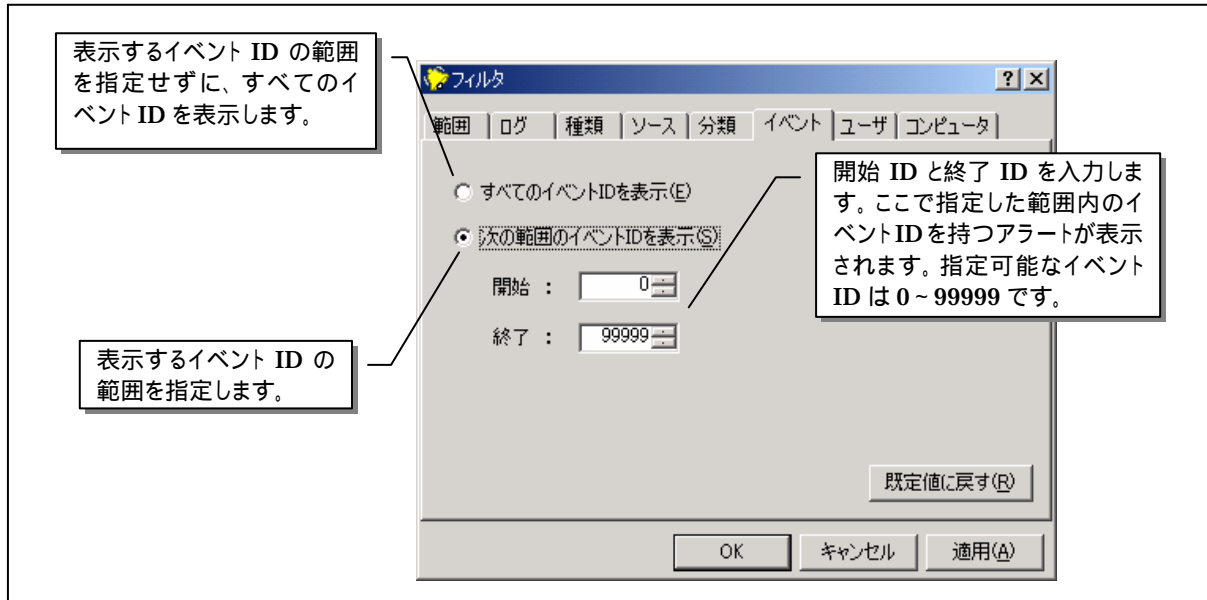
The screenshot shows the 'Filter' dialog box with the 'Range' tab selected. The 'Event Maximum Display Count (N)' is set to 300. The 'Date/Time Specification' checkbox is checked. The start date is 2003年 1月 1日 and the end date is 2003年 1月 1日 23:59:59. A calendar for January 2003 is displayed, with the 3rd of the month highlighted. The current date is 2003/03/03.

Annotations:

- イベントが発生した日時をフィルタとして設定する場合は、ここにチェックを入れます。
- イベントの最大表示件数を設定します。最新のイベントから順番に、ここで指定された件数までアラートビューアで表示します。指定可能な件数は10~999です。
- 日付の入力時に をクリックすると、カレンダーが表示されます。目的の日付を選択してください。
- 開始日時と終了日時を入力します。ここで指定した範囲内で発生したアラートが表示されます。

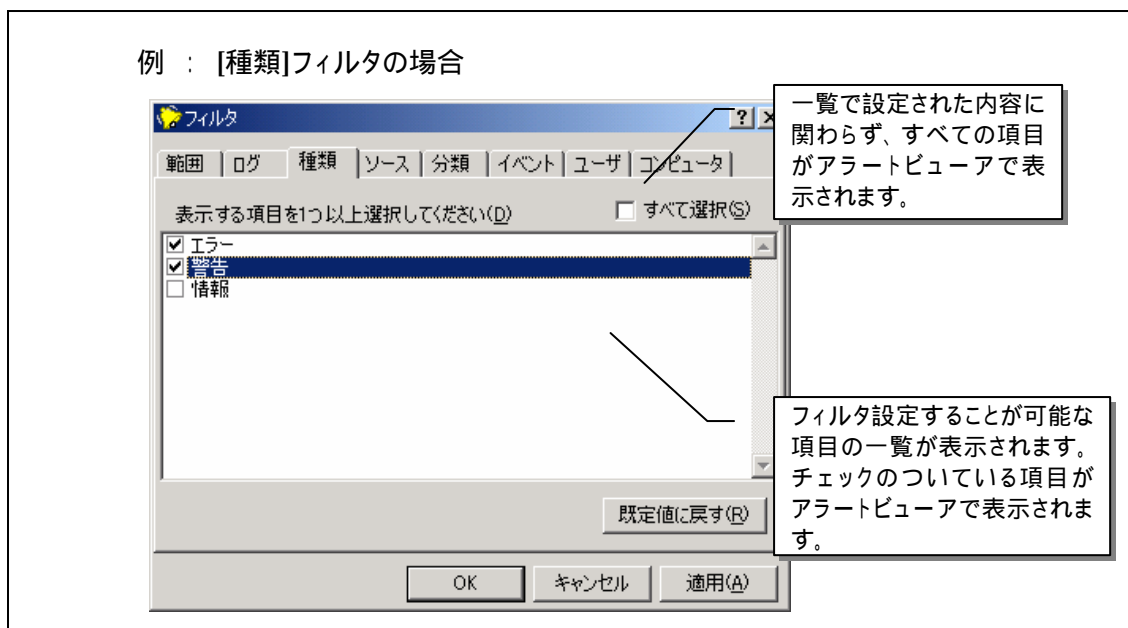
- **[イベント]フィルタ**



[イベント]フィルタ設定画面では、各アラートのイベント ID をフィルタとして指定することができます。



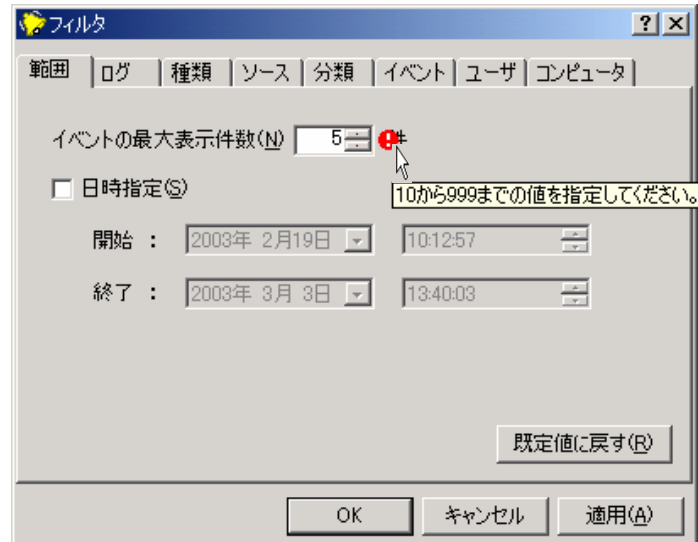
- **[範囲] [イベント]以外のフィルタ**


[範囲]と[イベント]以外のフィルタ([ログ] [種類] [ソース] [分類] [ユーザ] [コンピュータ]) 設定画面では、アラートビューアで表示する項目を選択することができます。



 不正な設定がある場合は、 が表示されます。

例： イベントの最大表示件数の設定値に誤りがある場合



マウスポインタをにあわせると、エラー内容が表示されます。内容に従って設定を変更してください。

3.8. アラートログファイルの表示

ログ収集ツールで収集したアラートログファイルを、アラートビューアで表示することができます。ログ収集ツールについては「4 ログ収集ツール」(26 ページ)を参照してください。

[表示手順]

1. アラートログファイルの選択

ログ収集ツールを使用して収集したログファイルの中から[クラスタ名].alt ファイルを選択します。[クラスタ名].alt ファイルは、[ログ収集ツールで指定したパス]¥Logs 以下にあります。

2. ファイル名の変更

1 で選択したアラートログファイルを、[同ドメイン内に存在しないクラスタ名].alt に変更します。



[同ドメイン内に存在するクラスタ名].alt ファイルは、クラスタ監視サービスがログの上書きを行う可能性があります。必ず[同ドメイン内に存在しないクラスタ名].alt に変更してください。

3. ファイルのコピー

2 で名前を変更したアラートログファイルを、[OperationHelper AE のインストールパス]¥ alert 以下にコピーします。

4. クラスタの登録

監視対象クラスタの追加と削除画面から、2 でアラートログファイルにつけたクラスタ名を登録します。登録方法については、「3.4 監視対象クラスタの追加と削除」(16 ページ)を参照してください。

5. アラートの表示

クラスタ監視サービスへの接続画面で、登録したクラスタ名を選択し[開始(S)]ボタンをクリックします。クラスタ監視サービスへの接続画面については「3.3 クラスタ監視サービスへの接続」(14 ページ)を参照してください。

以上の操作により、アラートログファイルを開くことができます。

4. ログ収集ツール

障害時などに行う面倒なログ収集作業を、ログ収集ツールを使って簡単に行うことができます。ログ収集ツールを使って収集することのできるログは、以下の通りです。

- 各ノードのイベントログ
- 各ノードのクラスタログ
- 共有ディスクのクォーラムリソース情報
- クラスタ監視サービスが保存したアラートビューア用ファイル
- 各ノードの **OperationHelper for MSCS** のログ (**OperationHelper for MSCS** がインストールされている場合)
- 各ノードの **OperationHelper BASE** ログ (**OperationHelper BASE** がインストールされている場合)

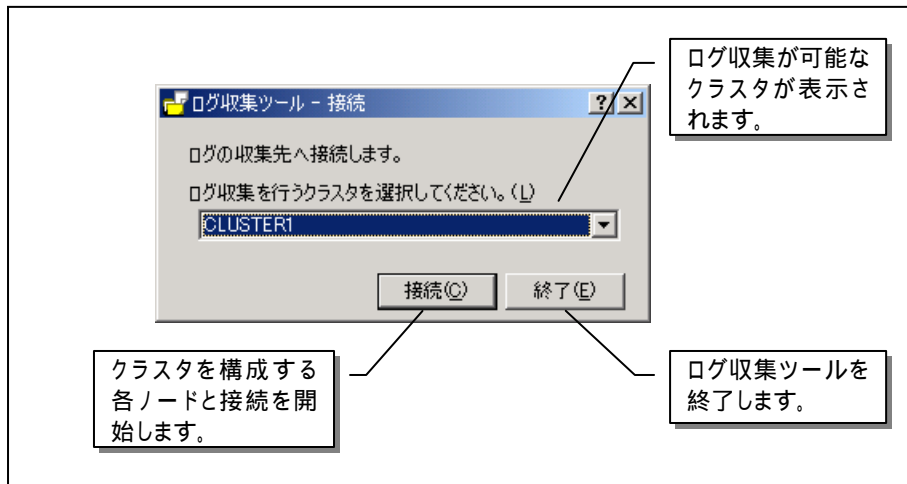
この章では、ログ収集ツールの使用方法について説明します。

4.1. 起動

インストール後にデスクトップに作成されるショートカットアイコン、または[スタート]メニューの[プログラム]から起動してください。

4.2. 収集先への接続

ログ収集ツールを起動すると、以下の画面が表示されます。



ログ収集ツールを使用するには、ログ収集先となるクラスタを構成する各ノードと接続する必要があります。

[接続手順]

1. コンボボックスにあるクラスタの一覧からログ収集を行うクラスタを選択します。



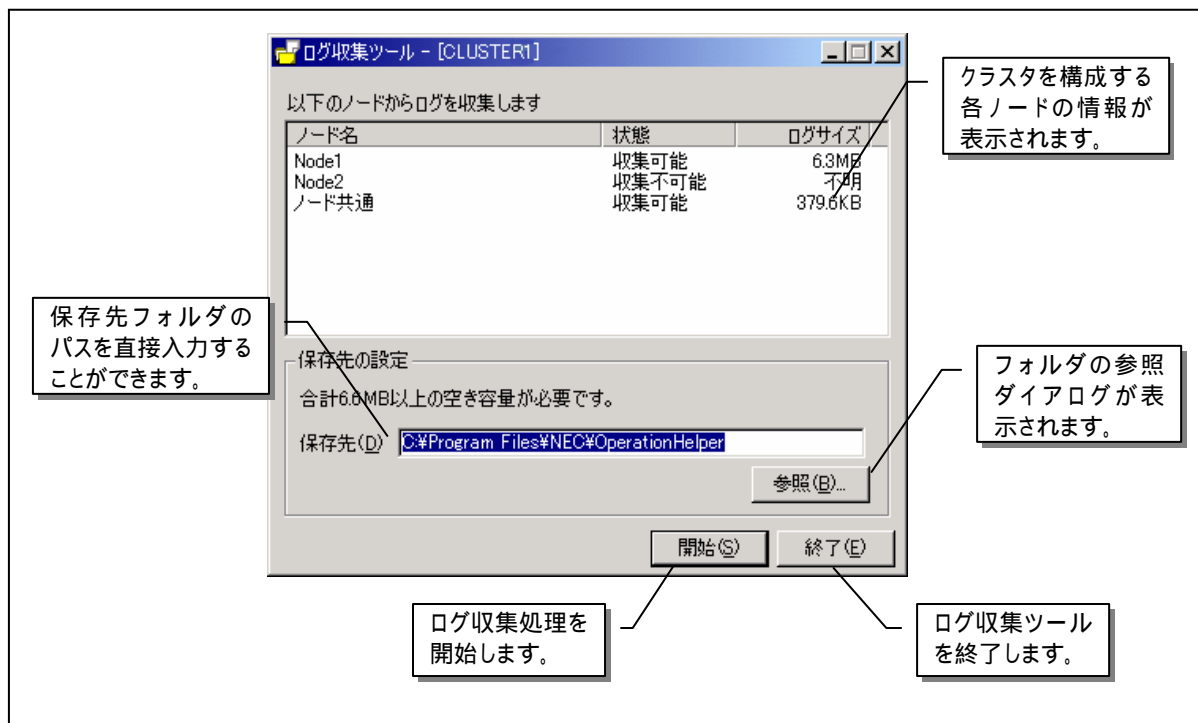
ログ収集ツールは、アラートビューアで監視対象となっているクラスタのみログ収集処理を行います。コンボボックスの一覧にないクラスタからログ収集を行う場合は、一度ログ収集ツールを終了して、アラートビューアから監視先の登録を行ってください。登録方法については、「3.4 監視対象クラスタの追加と削除」(16 ページ)を参照してください。

2. [接続(C)]ボタンをクリックします。

以上の操作により、各ノードとの接続が開始されます。接続が完了すると、メイン画面が表示されます。

4.3. ログ収集ツール メイン画面

各ノードとの接続が完了すると、以下の画面が表示されます。



4.3.1. ノード情報表示

画面上部にクラスタを構成する各ノードの情報が表示されます。表示される情報は以下の通りです。

- ノード名 : クラスタを構成するノードの一覧が表示されます。
- 状態 : 各ノードからログが収集できるかどうかを表示します。
「収集可能」と表示されているノードのみログ収集処理を行います。
- ログサイズ : 各ノードから収集するログのサイズを表示します。


4.4. ログの収集

[収集手順]

1. 保存先の設定


収集するログの合計サイズとディスクの空き容量を確認して、保存先フォルダを決定してください。保存先フォルダの変更は、以下の2通りの方法があります。

- [保存先(D)]に保存先フォルダのパスを直接入力する
- [参照(B)]ボタンをクリックし、フォルダの参照画面から保存先フォルダを選択する

 実際の保存先は、[指定パス]¥Logs になります。

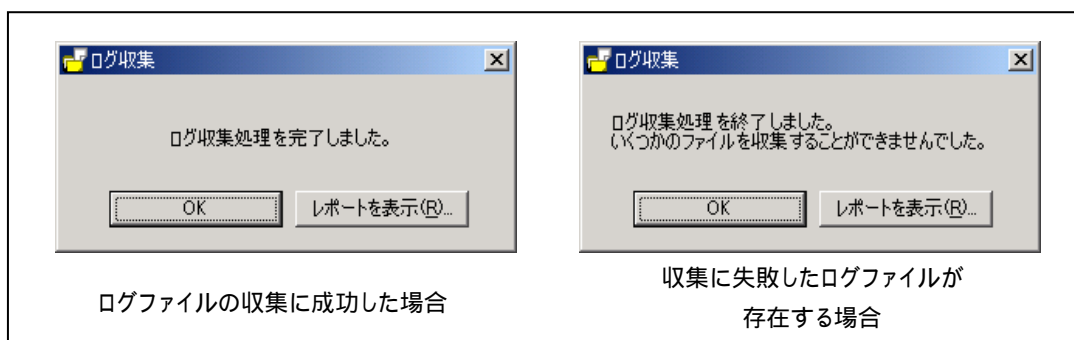
2. [開始(S)]ボタンをクリック

ログ収集処理が開始されます。

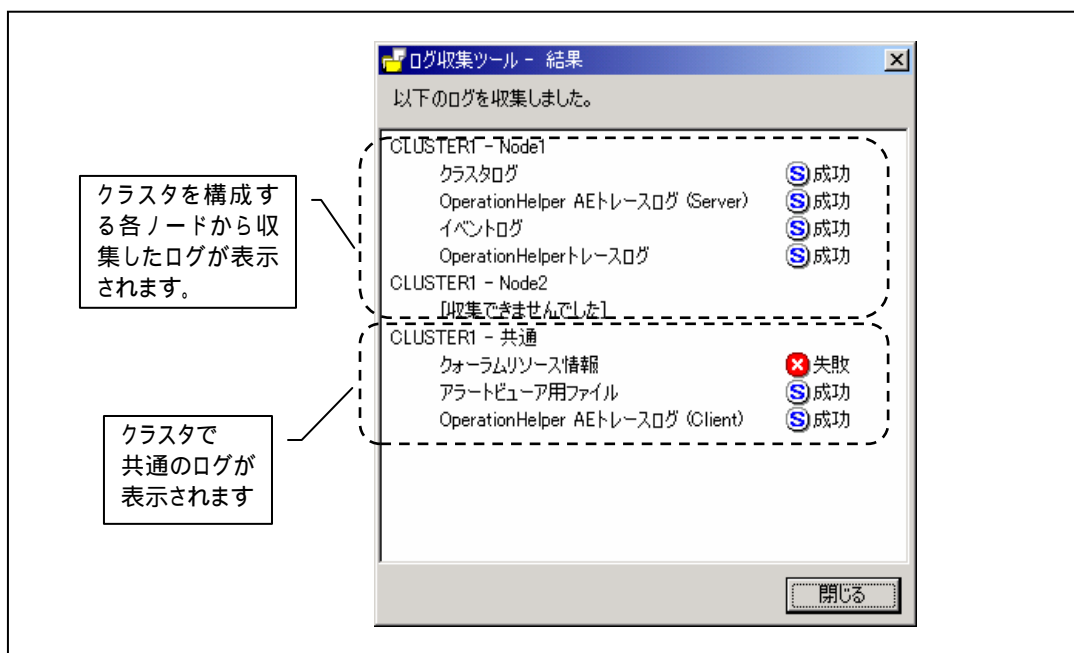
 新旧のログが混在することを避けるために、[指定パス]¥Logs 以下にあるファイルやフォルダは、収集処理開始時に削除されます。[指定パス]¥Logs 以下にファイルやフォルダがある場合は、収集処理を開始する前にバックアップをとるか、もしくは他の空のフォルダを指定してください。

3. 収集結果の確認

ログの収集処理が終了すると、以下のいずれかの画面が表示されます。



[レポートを表示(R)]ボタンをクリックすると、収集結果画面が表示されます。失敗の場合は、必要に応じて再度ログ収集を行ってください。



以上でログ収集処理は終了です。収集処理が成功すると以下のフォルダ構成になります。

[フォルダ構成]

- [指定パス]¥Logs**
アラートログファイル、クラスタ監視サービストレースログ (Client)、ログ収集結果レポートファイルが保存されます。
- [指定パス]¥Logs¥QuorumResource**
クォーラムディスクから収集したログファイルが保存されます。
- [指定パス]¥Logs¥[Node 名]**
各 Node 専用のフォルダが作成されます。このフォルダ以下には、各 Node から収集したログファイルを保存します。
- [指定パス]¥Logs¥[Node 名]¥OperationHelper**
各ノードから収集した OperationHelper ログが保存されます。
(OperationHelper がインストールされている場合のみ作成されます。)
- [指定パス]¥Logs¥[Node 名]¥OperationHelper BASE**
各ノードから収集した OperationHelper BASE ログが保存されます。
(OperationHelper BASE がインストールされている場合のみ作成されます。)